

令和8年度
研修計画書

新潟県農業大学校
研修センター

目 次

○ 令和8年度研修の基本方針	2
○ 令和8年度研修体系	3
○ 令和8年度年間研修日程表	4
○ 研修の申込み手続き	6
○ 研修受講にあたってのお願い	7
1 担い手育成に関する研修	8
(1) 就農実践技術コース	9
(2) 就農実践経営コース	11
(3) 農業担い手農耕用免許取得研修	12
2 農業経営のステップアップ支援に関する研修	16
(1) 経営管理・複式簿記基礎研修	17
(2) 農産加工基礎研修	19
3 農業機械の技術習得支援及び農作業事故防止の啓発に関する研修	22
(1) 初心者農業機械メンテナンス研修	23
(2) 初心者農業機械操作研修	25
(3) 農作業事故ゼロ推進研修（出張研修）	28
【参考】	
※農作業安全リーダー研修	30
※農作業安全に関する指導者向け研修	30
※農業用ドローンオペレーター技能資格取得研修	30
4 農業体験等を通じた農業理解促進に関する研修	31
(1) アグリキャンパスツアー	32
(2) 「大地の子」農業体験研修	34
(3) 農業体験支援研修	38
5 受入研修の申込みについて	40
(1) 施設使用許可申請書	41
(2) 許可事項変更許可申請書	43
(3) 研修館での宿泊者名簿	44
6 研修館での宿泊について	45
(1) 宿泊研修生の心得	46
(2) 研修館見取図	48
○ 農業大学校施設配置図	49

令和8年度研修の基本方針

1 基本方針

農業を巡る情勢がめまぐるしく変化する中で、将来にわたって持続可能な経営ができる優れた農業人材の確保・育成が求められています。

そのため、農業大学校研修センターでは、就農の準備段階から就業間もない農業者等に対して必要な知識・技術の習得のための各種研修を実施し、就農定着や経営発展を支援します。

また、幼児等の早い時期から農業に興味をもってもらうため、農業体験の機会を提供するとともに、農業高校等との連携により農業大学校における先進技術や実技を学ぶ機会を提供し、本校への進学や就農意欲の喚起を図ります。

2 研修の重点事項

(1) 優れた農業の担い手を育成

近年の就農希望者は、U I J ターン等による独立自営就農や農業法人への就業を目指す者など、就農形態が多様化しています。

このため、これらの就農希望者を対象に、ニーズに合わせたカリキュラムを設定し、農業の基礎的知識・技術の習得や経営計画の作成など、円滑な就農・就業を支援します。また、産地において即戦力となるよう、実践的な研修を実施し、独立自営とともに円滑な産地継承を支援します。

さらに、即戦力として期待される担い手育成として、大型特殊免許（農耕車限定）等の資格の取得を支援します。

(2) 農業経営のステップアップを支援

新規就農者や経営改善を志向する農業者等を対象に、経営管理に必要な農業簿記や会計に関する基礎知識の習得を支援します。

また、農産加工に関する基礎知識等の習得を支援します。

(3) 農業機械の技術習得支援及び農作業事故防止の啓発

農業法人への就業者が増加する中、初心者への農業機械の安全使用や効率的な操作及び農業機械のメンテナンスに関する技術の習得を支援します。

また、農作業事故撲滅に向け、地域に出向く出張研修を強化し、農作業安全の啓発を行います。

(4) 農業体験等を通じた農業理解促進

地域に開かれた農業大学校として、幼児から学生を対象に農業体験を通じて農業への理解を進める研修を実施します。

令和8年度研修体系

<p style="text-align: center;"><u>研修区分</u></p> <p style="text-align: right;">4区分</p>	<p style="text-align: center;"><u>研修名</u></p> <p style="text-align: right;">11 研修</p>
<p>1 担い手育成に関する研修 優れた担い手を育成する</p>	<p>(1) 就農実践技術コース (2) 就農実践経営コース (3) 農業担い手農耕用免許取得研修</p>
<p>2 農業経営のステップアップ支援に関する研修 農業経営のステップアップ等を支援する</p>	<p>(1) 経営管理・複式簿記基礎研修 (2) 農産加工基礎研修</p>
<p>3 農業機械の技術習得及び農作業事故防止の啓発に関する研修 農業機械の技術習得支援及び農作業事故の防止を啓発する</p>	<p>(1) 初心者農業機械メンテナンス研修 (2) 初心者農業機械操作研修 (3) 農作業事故ゼロ推進研修（出張研修）</p>
<p>4 農業体験等を通じた農業理解促進に関する研修 開かれた農業大学校として、農業体験の機会を提供する</p>	<p>(1) アグリキャンパスツアー (2) 「大地の子」農業体験研修 (3) 農業体験支援研修</p>

<p style="text-align: center;">農業大学校生に対する教育</p> <p style="text-align: center;">農業大学校の学生を対象に農業機械、農畜産物加工等の講義と実習教育を行う</p>

令和8年度

月 日	4	5	6	7	8	9
1					土	
2		土		農産加工基礎研修③	日	
3		日 憲法記念日				
4	土	みどりの日		土		
5	日	こどもの日		日		土
6		振替休日	土		農産加工基礎研修④	日
7			日			
8					土	
9		土			日	
10		日	農業機械メンテナンス研修			
11	土		初心者農業機械操作研修	土	山の日	
12	日			日		土
13	免許研修①		土	免許研修②		日
14	就農実践技術コース開講式 免許研修①		日	免許研修②		
15	免許研修①			免許研修②	土	
16	免許研修①	土	農産加工基礎研修②	免許研修②	日	
17	免許研修①試験	日		免許研修②試験		
18	土			土		
19	日			日		土
20			土	海の日		日
21			日			敬老の日
22				(初心者農業機械操作研修 予備日)	土	国民の休日
23		土			日	秋分の日
24		日				
25	土			土		
26	日			日		土
27			土			日
28		農産加工基礎研修①	日			
29	昭和の日				土	
30		土			日	
31		日				

年 間 研 修 日 程 表

10	11	12	1	2	3	月 日
	日		元日			1
		経営管理・簿記研修	土		就農実践経営コース閉講式	2
土	文化の日	経営管理・簿記研修	日			3
日						4
免許研修③	農産加工基礎研修⑥	土				5
免許研修③		日		土	土	6
免許研修③	土			日	日	7
免許研修③	日					8
免許研修③試験	免許研修⑥		土			9
土	免許研修⑥		日			10
日	免許研修⑥		成人の日	建国記念の日		11
スポーツの日	免許研修⑥	土				12
	就農実践経営コース閉講式 免許研修⑥試験	日		土	土	13
	土			日	日	14
農産加工基礎研修⑤	日					15
	免許研修⑦		土			16
土	免許研修⑦		日			17
日	免許研修⑦					18
免許研修④	免許研修⑦	土				19
免許研修④	就農実践技術コース閉校式 免許研修⑦試験	日		土	土	20
免許研修④	土			日	日 春分の日	21
免許研修④	日				振替休日	22
免許研修④試験	勤労感謝の日		土	天皇誕生日		23
土			日			24
日						25
免許研修⑤		土				26
免許研修⑤		日		土	土	27
免許研修⑤	土			日	日	28
免許研修⑤	日					29
免許研修⑤試験			土			30
土			日			31

研修の申込み手続

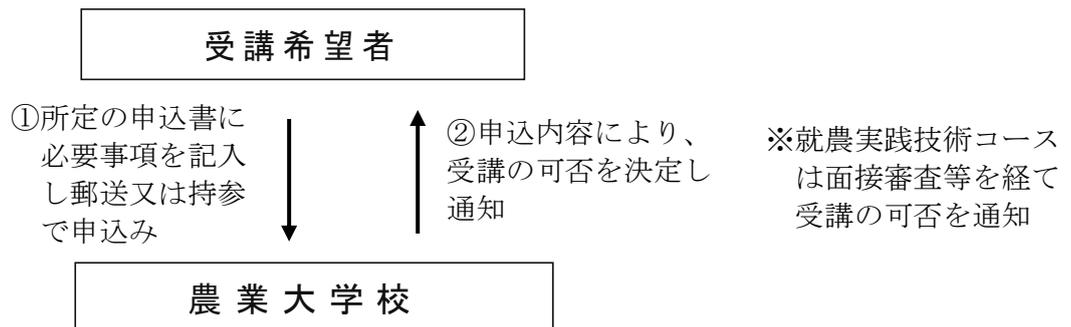
各研修により申込方法が以下のA～Dのとおり異なりますので、確認の上、所定の方法でお申し込みください。

各研修の申込書等は、新潟県農業大学校ホームページからダウンロードできます。

※申込書類に記載された個人情報は、本人への連絡、研修運営、研修実績資料作成のためだけに使用し、厳重に取り扱います。

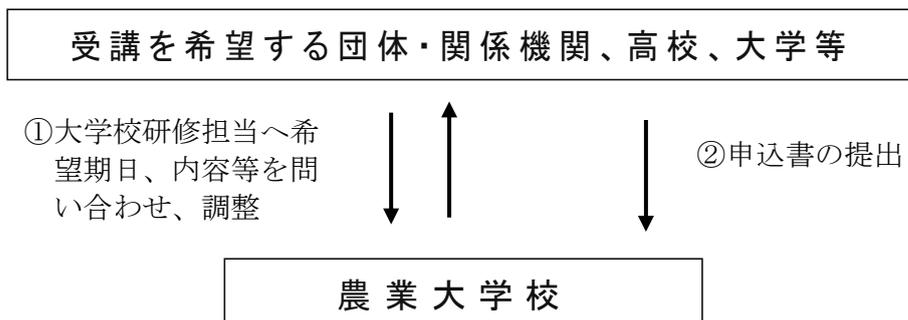
A: 所定の申込書による申込み

- ・就農実践技術コース(稲作、野菜専攻)
- ・就農実践経営コース
- ・農業担い手農耕用免許取得研修



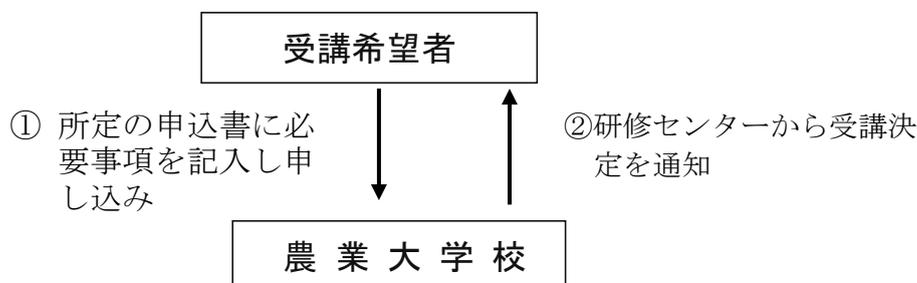
B: 事前に日程調整の上、所定の申込書による申込み

- ・農作業事故ゼロ推進研修
- ・アグリキャンパスツアー
- ・「大地の子」農業体験研修
- ・農業体験支援研修



C:新潟県農業大学校ホームページから電子申請で申込み

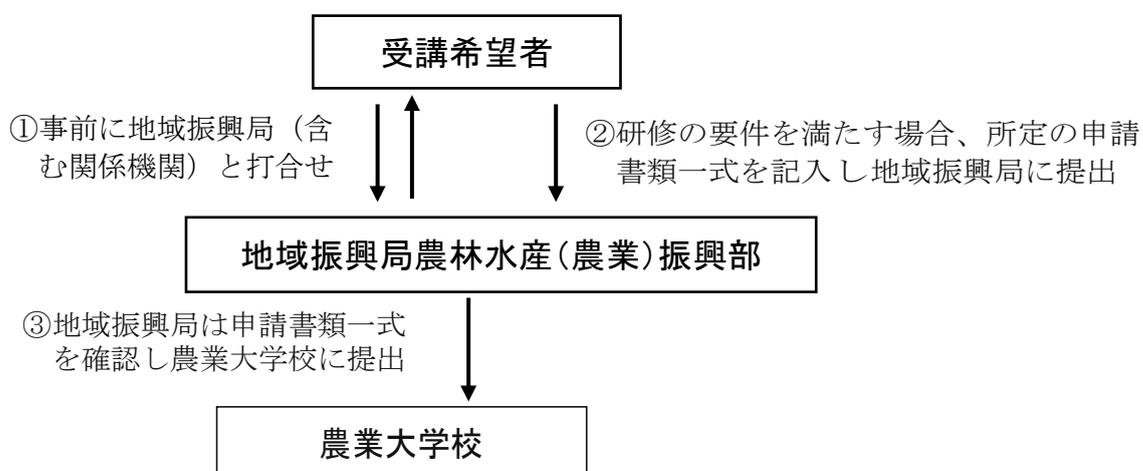
- ・経営管理・複式簿記基礎研修
- ・農産加工基礎研修
- ・初心者農業機械メンテナンス研修
- ・初心者農業機械操作研修



注) 農業大学校にFAX、メール又は持参で申し込みもできます。

D:最寄りの地域振興局農林水産(農業)振興部へ申込み

- ・就農実践技術コース(産地園芸専攻)



研修受講にあたってのお願い

- ① 研修の詳細については、農業大学校ホームページに掲載されています。なお、研修の内容・日程については予告なく変更することがありますので農業大学校研修センターのホームページをご確認ください。
- ② 参加申込み後に急遽欠席される場合は必ず担当者へ連絡してください。

農業大学校研修センターHP →



1 担い手育成に関する研修

近年の就農希望者は、U I J ターン等による独立自営就農や農業法人への就業を目指す者など、就農形態が多様化しています。

このため、これらの就農希望者を対象に、個々のニーズに合わせたカリキュラムを設定し、農業の基礎的知識・技術の習得や経営計画の作成による円滑な就農・就業を支援します。また、産地において即戦力となるよう、実践的な研修を実施し、独立自営とともに円滑な産地継承を支援します。

さらに、即戦力として期待される担い手育成として、大型特殊免許（農耕車限定）等の資格の取得を支援します。

- (1) 就農実践技術コース
- (2) 就農実践経営コース
- (3) 農業担い手農耕用免許取得研修

就農実践技術コース

1 目的

UIJターン等で県内に就農や雇用就業を考えている者を対象に、円滑な就農や雇用就業を進めるため、講義と栽培実習、先進農業者等での体験研修など、就農に必要な基礎知識・技術の習得を支援します。

2 対象者

以下の全ての項目に該当する者としてします。

- (1) 新たに新潟県内に就農又は農業法人等への雇用就業を希望する者
- (2) 学校教育法に基づく高等学校若しくは中等教育学校の卒業者（令和8年3月卒業見込みの者を含む）又は上記と同等の学力を有する者
- (3) 自立性と協調性に富み、心身ともに健全な者
- (4) 研修期間を通じて受講できる者
- (5) 就農希望地を所管する市町村等関係機関で就農相談し、認知されている者
- (6) 産地園芸専攻希望者は、当該産地での研修受入及び就農・就業について、産地等の了承を得ており関係機関等が推薦する受入可能な指導農業者(※)が確定している者

(※) 指導農業者の要件は以下のとおり

原則として認定農業者であり、優れた技術と担い手を育てる意欲があること。かつ受入産地又は関係機関が推薦する者で、以下のいずれかに該当する農業者

- ①指導農業士・青年農業士認定者、又は候補者
- ②過去に研修生を受け入れ、指導実績がある農業者
- ③農業普及指導センター主催のニュー農業塾や園芸参入塾等の塾長経験者または塾長候補者

3 研修期間

令和8年4月14日（火）～11月20日（金）

4 募集人数・専攻

合計 18人

専攻名	専攻の概要	実習場所
稲作	水稻栽培を研修	大学校内水田
野菜	主要な野菜栽培を研修	大学校内露地畑、ハウス
産地園芸	新規就農者の受入体制がある産地、又は今後体制整備を行う産地で、就農時に栽培する品目を実践的に研修	産地の指導農業者の畑、施設等

5 研修場所

農業大学校研修館及びほ場、産地等の現地ほ場、県内農業者・農業法人等の現地

6 研修内容

(1) 講義

ア 本校農学部の一部授業のビデオ聴講（大学校又は自宅で受講）

イ 専任講師による対面講義

(2) 専攻別栽培実習

(3) みどりの食料システム戦略及びスマート農業に関する研修

(4) 各種体験研修（希望制）

希望者は以下の研修を受講できます。

ア 先進農業体験研修

先進的な農業経営に取り組む農業者・農業法人のほ場で、数日実習します。

イ JA直売所体験研修

直売所で、直接販売やマーケティングの手法を学びます。

(5) 研修センター主催研修（希望制）

希望者は研修センター主催の各種研修が受講できます。

7 申請方法（P6～7参照）

(1) 専攻別申請方法

ア 稲作専攻、野菜専攻

受講希望者は、申請書類を農業大学校に持参又は「特定記録郵便」で郵送してください。

郵送の場合は「就農実践技術コース受講申込み」と朱書きしてください。

イ 産地園芸専攻

受講希望者は、申請書類を2部作成し就農希望産地（市区町村）を所管する農業普及指導センターに持参又は「特定記録郵便」で郵送してください。郵送の場合は「就農実践技術コース受講申込み」と朱書きしてください。

農業普及指導センターは、受講希望者の申請書類と受け入れる指導農業者の推薦書を添えて農業大学校に提出してください。

(2) 受付期間 令和8年2月18日（水）～2月25日（水）（必着）

(3) 申請書類（受講申請書、履歴書、就農計画）は、農業大学校ホームページからダウンロードできます。

8 受講者選考と決定

(1) 稲作専攻、野菜専攻

受講者の選考は申請書類及び面接により行います。受講可否の結果は、面接後速やかに受講申請者に通知します。

面接日 令和8年2月27日（金）

(2) 産地園芸専攻

農業普及指導センターからの申請書類提出により、受講決定とします。

なお、面談で就農に向けた産地からのサポートの見込み等を確認します。

面談日 令和8年2月27日（金）

9 受講者負担経費（予定）

(1) 実習実費（一部の実習資材費等）5万円程度

(2) 教科書代、各種資格受講料等は、受講に伴い実費

10 留意事項

(1) 県内の関係機関と連携し、就農・雇用就業を図ること。

(2) 研修期間中、遠方からの受講者は農業大学校研修館の宿泊施設を月～木曜日まで利用することができます。（宿泊はリネン料実費負担）

(3) 受講者名簿は、研修修了後の就農を支援する目的から、農林水産部経営普及課と所管する農業普及指導センターに提供します。

(4) 就農準備資金の対象者要件として、研修時間が概ね年間1,200時間以上であり1年以上研修日数が必要のため当技術コースだけでは該当しません。令和8年11月13日から令和9年3月2日まで実施する『就農実践経営コース』を受講し、その他要件も満たす場合、就農準備資金の申請が可能です。

就農実践経営コース

1 目的

U I J ターン等で県内に就農や雇用就業を考えている者を対象に、円滑な就農や雇用就業に必要な農業経営に関する基礎知識の習得と経営計画の作成を支援します。

2 対象者

以下の全ての項目に該当する者としてします。

- (1) 新たに新潟県内に就農又は農業法人等への雇用就業を希望する、意欲ある者
- (2) 自分の「経営計画」を策定するため、研修期間を通じて受講できる者
- (3) 就農希望地を所管する市町村等関係機関に就農相談し、認知されている者

3 研修期間

令和8年11月13日（金）～令和9年3月2日（火）

4 募集人数

20人

5 研修場所

農業大学校研修館

6 研修内容

研修最終日に「経営計画」を発表するために以下の研修を行います。

時 期	内 容
11月13日	開講式、「経営計画」作成講義・演習
11月～2月	本校学部の経営関係授業のビデオ聴講
11月13日～2月	専任講師による「経営計画」作成講義・演習
12月2日、3日	経営管理・複式簿記基礎研修
1月	先進的農業者等の講演
2月中旬	「経営計画」発表練習
3月2日	「経営計画」発表、閉講式

7 申込方法（P6参照）

(1) 申込方法

申込書類を農業大学校に持参又は「特定記録郵便」で郵送してください。郵送の場合は「就農実践経営コース受講申込み」と朱書きしてください。

(2) 受付期間 令和8年9月18日（金）～10月20日（火）（必着）

(3) 申込書類（受講申込書、履歴書、就農計画）はホームページからダウンロードできます。

* 申込書類に不備がある場合、受講できない場合があります。

8 受講者負担経費

テキスト代等実費

9 留意事項

受講者名簿は、農林水産部経営普及課と所管する農業普及指導センターに提供します。

農業担い手農耕用免許取得研修

1 目的

農業の担い手を対象に、経営開始や経営発展に必要な大型特殊免許（農耕車限定）又はけん引免許（農耕車限定）の取得と農業機械に関する安全知識の習得を支援します。

（当研修は、新潟県警察運転免許センターの協力を得て実施しています）

2 開催期日及び受講人数

回	免許種別	開催期間	申込期間	受講予定人数
第1回	大特	4月14日（火）～4月17日（金）	3月4日（水） ～3月18日（水） （必着）	12人
	けん引	4月13日（月）～4月17日（金）		
第2回	大特	7月14日（火）～7月17日（金）		15人
	けん引	7月13日（月）～7月17日（金）		
第3回	大特	10月6日（火）～10月9日（金）		15人
	けん引	10月5日（月）～10月9日（金）		
第4回	大特	10月20日（火）～10月23日（金）		15人
	けん引	10月19日（月）～10月23日（金）		
第5回	大特	10月27日（火）～10月30日（金）	7月6日（月） ～8月7日（金） （必着）	15人
	けん引	10月26日（月）～10月30日（金）		
第6回	大特	11月10日（火）～11月13日（金）		15人
	けん引	11月9日（月）～11月13日（金）		
第7回	大特	11月17日（火）～11月20日（金）		15人
	けん引	11月16日（月）～11月20日（金）		

※ 申込者が定員を大きく下回った場合は、当該回の研修を中止する場合があります。

3 対象者

新潟県内に住所を有する（免許証の住所も）下記の（1）及び（2）に掲げる要件を満たす者

（1）所有免許要件：申込時にアまたはイに該当する者

ア 大型特殊免許（農耕車限定）取得希望者

普通免許（AT限定も可）を取得している者

イ けん引免許（農耕車限定）取得希望者

大型特殊免許（農耕車限定含む）を取得している者（カタピラ限定は不可）

（2）担い手要件：申込時にア～クのいずれかに該当する者

ア 就農実践技術コース（農業大学校主催研修）受講者

イ 就農準備資金・経営開始資金（左記に準ずる補正事業）または農業次世代人材投資事業経営開始型を受給している者

ウ 認定新規就農者

エ 農業機械士

オ 認定農業者

カ 認定農業者または認定新規就農者と家族経営協定を結んでいる者

キ 認定農業者または認定新規就農者と雇用契約を結んでいる者

ク 地域おこし協力隊（農業を主な業務とする者）

4 会 場

農業大学校総合教室棟農業機械教室及びトラクター運転練習コース

5 研修概要

免許種類	日 程	内 容
大 特 (農耕車限定)	1～3日目 9:00～16:00	トラクター走行練習（練習コース）
	4日目 8:20～15:30	運転免許試験、農作業安全 農耕トラクターの公道走行について
けん引 (農耕車限定)	1～4日目 9:00～16:00	トレーラー走行練習（練習コース）
	5日目 8:20～15:30	運転免許試験、農作業安全 農耕トラクターの公道走行について

6 申込方法（P 6 参照）

(1) 申込先

所定の申込書（P 14～15）に必要事項を記入し、必要書類を添付して農業大学校研修センターに持参または「特定記録郵便」で「免許研修申込書在中」と朱書きして郵送してください。

(2) 申込期間

受講を希望する回に応じて下記の期間に申し込んでください。

- ・第1～2回の申込期間：令和8年3月4日（水）～3月18日（水）（必着）
- ・第3～7回の申込期間：令和8年7月6日（月）～8月7日（金）（必着）

(3) 申込人数

同一法人等で複数の受講希望者（構成員や従業員等）がいる場合は、免許種別に関わらず単年度で申し込めるのは原則3人までとします。また、同一回で複数の申し込みはできません。

7 選 考

先着順ではありません。申込みが定員を上回った場合は、3の(2)担い手要件のア～エに属する者をア→イ→ウ→エの順に優先的に選考します。次いで、オ～キに属する者を一括りとして原則として年齢の若い順に選考し、最後にクに属する者を年齢の若い順に選考します。

8 受講決定

受講の可否については、第1～2回は3月下旬、第3～7回は8月中旬に郵送でお知らせします。受講決定後は、受講回や受講者の変更（入替）はできません。

9 受講者負担経費（予定）

- (1) 受講料 14,000円
- (2) 運転免許受験手数料 2,800円
- (3) 運転免許交付手数料 1,550円～2,450円（交付希望種別により金額が異なります）

10 留意事項

- (1) 納入された受講料及び運転免許受験手数料は、返還できませんのでご注意ください。
- (2) 免許試験では、適性試験（大特は視力、けん引は視力と深視力）に合格しなければ、実技試験を受験できません。視力に不安がある場合は、事前に眼科医等の検査を受けて視力を矯正しておいてください。【大特：一眼0.3以上 両眼0.7以上、けん引：一眼0.5以上 両眼0.8以上 深視力誤差2cm以内】
- (3) 希望により、農業大学校研修館の宿泊施設を利用することができます。宿泊代としてリネン料（実費）を負担願います。

【第1～2回】 農業担い手農耕用免許取得研修申込書

必要書類を添付して、申込期間【3月4日～3月18日】必着で
持参または「特定記録郵便」(「免許研修申込書在中」と朱書き)で郵送してください。

フリガナ		性 別 (いずれかに○)	男 ・ 女
氏 名		連絡先 (携帯電話番号)	
生年月日	年 月 日	農業経験年数 (令和8年4月現在)	年 月
住 所 <small>新潟県外の方は申し込みできません。</small>	〒	年間の農業従事 日数 (見込み可)	日/年
		直近の 免許証交付日	年 月 日
希望する免許の種類 (いずれかに○)		大特 (農耕車限定) ・ けん引 (農耕車限定)	
第1～2回のうち 受講を希望する回を 記入してください	第1希望 第 回	第2希望 第 回 または 希望しない	
	担い手要件	添付書類	
該当する要件に○をつけてください	ア 就農実践技術コース受講者	なし (申込書のみ提出)	
	イ 就農準備資金・経営開始資金 (左記に準ずる補正事業) または農業次世代人材投資事業経営開始型を受給している者	・ 計画承認通知の写し	
	ウ 認定新規就農者	・ 認定通知の写し	
	エ 農業機械士	・ 農業機械士認定証の写し	
	オ 認定農業者	・ 経営改善計画認定書の写し	
	カ 認定農業者または認定新規就農者と家族経営協定を結んでいる者	・ 経営改善計画認定書等の写し ・ 家族経営協定書の写し	
	キ 認定農業者または認定新規就農者と雇用契約を結んでいる者	・ 雇用主の経営改善計画認定書等の写し ・ 労働条件通知書等の写し	
	ク 地域おこし協力隊 (農業を主な業務とする者)	・ 地方自治体からの委嘱状等の写し ・ 農耕用免許が必要な理由が分かるもの 例) 地域おこし協力隊としての活動内容 任期終了後の営農計画 等	

※その他、必要により担い手要件に該当する事実を確認できる書類の写しを添付してください。

【第3～7回】 農業担い手農耕用免許取得研修申込書

必要書類を添付して、申込期間【7月6日～8月7日】必着で
持参または「特定記録郵便」(「免許研修申込書在中」と朱書き)で郵送してください。

フリガナ		性別 (いずれかに○)	男 ・ 女
氏名		連絡先 (携帯電話番号)	
生年月日	年 月 日	農業経験年数 (令和8年4月現在)	年 月
住所 <small>新潟県外の方は申し込みできません。</small>	〒	年間の農業従事日数 (見込み可)	日 / 年
		直近の 免許証交付日	年 月 日
希望する免許の種類 (いずれかに○)		大特 (農耕車限定) ・ けん引 (農耕車限定)	
第3～7回のうち受講を希望する回を記入してください。 <small>希望する回はできるだけ複数記入してください。</small>	第1希望：第 回	第2希望：第 回	第3希望：第 回
	第4希望：第 回	第5希望：第 回	いつでもよい
	担い手要件	添付書類	
該当する要件に○をつけてください	ア 就農実践技術コース受講者	なし (申込書のみ提出)	
	イ 就農準備資金・経営開始資金 (左記に準ずる補正事業) または農業次世代人材投資事業経営開始型を受給している者	・ 計画承認通知の写し	
	ウ 認定新規就農者	・ 認定通知の写し	
	エ 農業機械士	・ 農業機械士認定証の写し	
	オ 認定農業者	・ 経営改善計画認定書の写し	
	カ 認定農業者または認定新規就農者と家族経営協定を結んでいる者	・ 経営改善計画認定書等の写し ・ 家族経営協定書の写し	
	キ 認定農業者または認定新規就農者と雇用契約を結んでいる者	・ 雇用主の経営改善計画認定書等の写し ・ 労働条件通知書等の写し	
ク 地域おこし協力隊 (農業を主な業務とする者)	・ 地方自治体からの委嘱状等の写し ・ 農耕用免許が必要な理由が分かるもの 例) 地域おこし協力隊としての活動内容 任期終了後の営農計画 等		

※その他、必要により担い手要件に該当する事実を確認できる書類の写しを添付してください。

2 農業経営のステップアップ支援に関する研修

新規就農者や経営改善を志向する農業者等を対象に、経営管理に必要な農業簿記や会計に関する基礎知識の習得を支援します。
また、農産加工に関する基礎知識等の習得を支援します。

- (1) 経営管理・複式簿記基礎研修
- (2) 農産加工基礎研修

経営管理・複式簿記基礎研修

1 目的

農業経営の改善を志向する農業者を対象に、経営管理に必要な農業簿記や会計に関する基礎知識の習得を支援します。

2 対象者

新規就農者等で農業簿記の基礎知識を習得し、経営改善を志向する農業者

3 開催期日

令和8年12月2日（水）～12月3日（木）（2日間）

4 募集人数

30人程度（対面定員20人）

5 会場

対面での講義・演習を基本とします。

（1）対面会場：農業大学校 研修館 大研修室

（2）オンライン参加：Microsoft Terms
（接続情報と研修資料(PDF)は後日メールで連絡します。）

6 研修日程と内容

日程	内容	講師
1日目 9:30～16:30	複式簿記の基礎、取引と仕訳	県経営普及課 農業革新支援担当
2日目 9:00～16:30	決算、演習問題、決算書分析	

7 申込方法（P7参照）

（1）申込先等

農業大学校ホームページから電子申請で申し込んでください。

なお、電子申請ができない場合は、所定の申込書（P18）を農業大学校研修センターへFAX、メール又は持参にて申し込むこともできます。

（2）申込期間

令和8年10月7日（水）～11月11日（水）

8 受講者負担経費

無料（予定）

9 持参・準備物

- ・電卓、筆記用具
- ・オンライン参加者は、安定した通信環境、カメラ・マイクを準備ください。

10 宿泊について

対面での受講希望者は、研修前日又は当日に、農業大学校研修館の宿泊施設を利用いただけます。宿泊希望者は申込時に希望日と性別を選択してください。

※ リネン料（実費）を御負担いただきます。

経営管理・複式簿記基礎研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

標記研修を、下記のとおり申し込みます。

記

1 氏名 (フリガナ)

2 住所

3 連絡先

(1) 電話番号 (日中連絡が取れる番号) :

(2) E-mail :
(必須)

4 受講方法 (どちらかに○印)

対面	オンライン	
		(受講場所)

※ 受講場所は、「自宅」、「(農)●●事務所」等と記載してください。

5 宿泊の希望

宿泊を希望する場合は、希望日と性別に○を付けてください。

(1) 宿泊希望日

12月1日 (前泊)	12月2日 (当日)

(2) 性別

男性	女性

農産加工基礎研修

1 目的

基礎的な農産加工に関する講義や実習により、農産加工の基礎を学びます。

2 対象者

農産加工部門の取組をはじめたい農業者（法人含む）

3 開催日程及び内容

回	開催日時	内 容	講 師
1	5月28日(木) 13:30～16:00	【オリエンテーション】 【講義】農産加工の基礎知識① 加工部門導入の流れ等 【講義】農産加工の基礎知識② 食品衛生	研修センター職員
2 ※	6月16日(火) 10:00～15:30	【講義】食品関連の法令(食品衛生法、食品表示法) 6次産業化の取組事例・支援制度	県庁関係課担当者
3	7月2日(木) 10:00～16:00	【視察】新潟市食品加工支援センター 農業者の加工事例	新潟市食品加工支援 センター 農業者
4 ※	8月6日(木) 13:30～16:30	【講義】商品開発の手法(商品企画・取組方法) ～消費者に求められる商品とは～ 商品企画書・事業計画の作成方法	外部専門家
5	10月15日(木) 9:30～16:00	【実習】加工実習① 保存(びんづめ、塩蔵、乾燥、殺菌) 【講義】農産加工の基礎知識③ 食品加工機器(農大加工室にある加工機 械・器具)・包装資材・品質保持剤等	研修センター職員
6	11月5日(木) 9:30～16:00	【実習】加工実習② 米、大豆等を使用した加工	研修センター職員
7 ※	12月上旬 13:30～16:00	【講義】農産加工の基礎知識④ 販売時に必要な知識 価格設定、商談の基礎知識	外部専門家

4 募集人数

10人程度

5 会 場

農業大学校 研修館小研修室(講義)、調理実習室(実習)ほか

※印の回はオンライン併用

6 申込方法(P7参照)

(1) 申込方法：農業大学校ホームページから電子申請で申し込んでください。

または所定の申込書(P21)を農業大学校研修センターへFAX、メール又は持参して申し込むこともできます。

(2) 申込期間：令和8年4月8日(水)～5月7日(木)

7 受講者負担経費

- ・加工実習及び視察の回は、実習材料費、視察料として実費を負担願います。
- ・視察研修先への移動に係る経費(交通費)
- ・その他

8 留意事項

受講申込み受付後、受講案内及びアンケートをメールしますので、記入のうえ別途指定する期日までにメールで提出してください。

農産加工基礎研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

1 受講者氏名（フリガナ）

2 法人名または農場名

3 連絡先

（1）住所：

（2）電話番号（日中連絡が取れる番号）：

（3）FAX番号：

（4）メールアドレス：

4 その他

受講者が農業法人や組織の所属で参加する場合

法人・組織名：

電話番号：

3 農業機械の技術習得支援及び農作業事故防止の啓発に関する研修

農業法人への就業者が増加する中、初心者への農業機械の安全使用や効率的な操作点検技術等の習得を支援します。

また、農作業事故撲滅に向けて、地域に出向く出張研修を強化し、農作業安全啓発を行います。

- (1) 初心者農業機械メンテナンス研修
- (2) 初心者農業機械操作研修
- (3) 農作業事故ゼロ推進研修

【参考】

※農作業安全リーダー研修（新潟県農林水産部農産園芸課主催）

※農作業安全に関する指導者向け研修（農林水産省主催）

※農業用ドローンオペレーター技能資格取得研修（民間企業主催）

初心者農業機械メンテナンス研修

1 目的

新規就農者等を対象に、乗用田植機とトラクターの基本的な点検整備に関する知識・技術の習得を支援するとともに、農作業事故防止に必要な安全教育を行います。

2 対象者

新規就農者、農業法人等就業者、就農実践技術コース受講者

3 開催期日

令和8年6月10日（水）

4 募集人数

8人（先着順）

5 会場

農業大学校 総合教室棟機械教室、農業機械整備庫

6 研修日程及び内容

日程	内容	講師
9:30 9:40～10:00 10:10～12:00 13:10～16:30	受付、オリエンテーション 講義：農作業安全について 実習：乗用田植機の基本的な点検整備 （オイル交換、ベルト・爪調整、グリスアップ等） 実習：トラクターの基本的な点検整備 （エンジンオイル交換、グリスアップ等）	研修センター職員 農業機械メーカー

7 申込方法（P 7 参照）

（1）申込先等

農業大学校ホームページから電子申請で申込んでください。

所定の申込書（P24）を農業大学校研修センターへFAX、メール又は持参にて申し込むこともできます。

（2）申込期間

令和8年4月22日（水）～5月20日（水）

8 受講決定の通知

受講の可否については、開催日の概ね10日前を目途にメールにて通知します。

9 受講者負担経費

無料（予定）

10 留意事項

（1）乗用田植機のみ、トラクターのみを受講することはできません。

（2）受講が困難になった場合は、速やかに申し出てください。

（3）研修期間を契約期間とする傷害保険に加入（任意）の上、研修当日に健康保険証等を持参してください。

（4）軍手、帽子、安全靴等を用意の上、汚れてもよい服装で受講してください。

初心者農業機械メンテナンス研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

1 氏名 (フリガナ)

2 住所

3 連絡先

(1) 電話番号 (日中連絡の取れる番号) :

(2) E-mail :
(必須)

4 前泊 (6月9日) の希望有無

前泊 (6月9日) を希望する場合は、性別欄に○をつけてください。

希望する	男性	
	女性	
希望しない		

初心者農業機械操作研修

1 目的

新規就農者等の農業機械操作初心者を対象に、農作業事故防止に必要な安全教育を行なうとともに、トラクターの基本的な点検と操作方法・ほ場作業に関する知識・技術の習得を支援します。

2 対象者

新規就農者、農業法人等就業者、就農実践技術コース受講者

3 開催日

令和8年6月11日（木）（予備日 令和8年7月22日（水））

※ ほ場状況等により実習ができないと判断した場合、全ての内容を予備日に振り替えて実施します。（その場合、開催日2日前にメールで連絡します。）

なお、予備日で同様の事態になった場合は、研修は中止せず、実習内容の一部を変更して実施します。

4 募集人数

12人（先着順）

5 会場

農業大学校 総合教室棟機械教室、農業機械整備庫、農業機械練習ほ場

6 研修日程及び内容

日 程	内 容	講 師
9:30	受付、オリエンテーション	研修センター職員 農業機械メーカー
9:40～10:20	講義：農作業安全について	
10:30～11:20	実習：トラクターの仕業点検	
11:30～12:00	講義：トラクターによるロータリー耕の基本操作	
13:10～16:30	実習：トラクターによるロータリー耕	

7 申込方法（P 7 参照）

（1）申込先等

農業大学校ホームページから電子申請で申込んでください。

所定の申込書（P27）を農業大学校研修センターへFAX、メール又は持参にて申し込むこともできます。

（2）申込期間

令和8年4月22日（水）～5月20日（水）

8 受講決定の通知

受講の可否については、開催日の概ね10日前を目途にメールにて通知します。

9 受講者負担経費

無料（予定）

ただし、研修の前日に農業大学校研修館の宿泊施設を利用する場合、宿泊代としてリネン料（実費）を負担願います。

10 留意事項

（1）受講が困難になった場合は、速やかに申し出てください。

- (2) 研修期間を契約期間とする傷害保険に加入（任意）のうえ、研修当日に健康保険証等を持参してください。
- (3) 軍手、ヘルメット、長靴等を用意のうえ、汚れてもよい服装で受講してください。また、必要に応じて雨具を用意してください。

初心者農業機械操作研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

1 氏名 (フリガナ)

2 住所

3 連絡先

(1) 電話番号 (日中連絡が取れる番号) :

(2) E-mail :
(必須)

4 前泊 (6月10日) 希望の有無

前泊 (6月10日) を希望する場合は、性別欄に○をつけてください。

希望する	男性	
	女性	
希望しない		

農 作 業 事 故 ゼ ロ 推 進 研 修（出張研修）

1 目的

農作業事故撲滅のため新潟県農業機械士会と連携し、農作業事故の多い農機具を対象とした安全使用講習を通じて、地域における農作業安全の取組みを支援し、事故防止のための意識啓発を図ります。

2 対象者

農業者、関係機関・団体の農作業安全担当者

3 予定人数・回数

5名以上の参加で開催、年間10回程度

4 開催期日

事前に受講希望機関・団体と調整した期日

5 会 場

受講希望機関・団体が設定する現地会場

6 研修内容（例）

研修時間（目安）	内 容
90分程度	<ul style="list-style-type: none">・農作業事故の現状と課題・農作業事故の要因と対策・地域における農作業安全の取組み事例 等

※ 研修内容は地域の要望に応じて調整が可能ですので、ご相談ください。

7 申込方法（P 6 参照）

開催予定期日の2週間前までに、別紙申込書（P29）を農業大学校研修センターへメール、FAX、郵送又は持参にて申し込みください。

8 受講者負担経費

無料（予定）

9 留意事項

実施に当たっては、担当者と開催期日や内容の詳細を調整してから申し込みください。

また、地域全体の農作業安全への意識啓発を図るため、関係機関・団体担当者と連携して企画・運営するよう配慮願います。

農作業事故ゼロ推進研修（出張研修）申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

機関・団体名：

住 所：

代 表 者 名：

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

- 1 期 日 年 月 日 ()
- 2 時 間 時 分 から 時 分まで
- 3 会場名及び所在地
- 4 研修内容
- 5 研修対象者及び人数
- 6 その他

担当者氏名：

電話番号：

FAX 番号：

E-mail：

【参考】

農作業安全リーダー研修（新潟県農林水産部農産園芸課主催）

地域や現場における農作業安全活動を支援するための研修が開催される予定です。開催要領等の詳細については、市町村や関係機関・団体を通じて別途通知されます。

【参考】令和7年度開催状況

対象者：農業法人、農業機械士、市町村・JA等担当者、県担当者等

開催日：令和8年1月29日

農作業安全に関する指導者向け研修（農林水産省主催）

農作業安全に関する指導者向け研修がオンラインで開催される予定です。詳細については、市町村や関係機関・団体へ別途案内されます。

【参考】令和7年度開催状況

対象者：都道府県、市町村、JA等の農業団体の職員

開催日等：年7回、同一内容で開催

農業用ドローンオペレーター技能資格取得研修

民間企業の主催により、農業大学校を会場に農業用ドローンのオペレーター技能資格を取得することができます。詳細は、本校又は実施機関にお問い合わせください。

ドローン講習 実施機関	開催月日	教習可能人数	機種
新潟スカイテック株式会社 住所：新発田市島潟203-1 電話：0254-26-3881 FAX：0254-26-0481	6月23～26日 8月4～7日* 9月29日～10月2日 10月20～23日	1開催あたり 2～5人	DJI Tシリーズ
株式会社バイタルグリーン 住所：新潟市西区曾和字沢田365番1 電話：025-211-8520 FAX：025-211-8565	7月28～31日*	1～4人	XAG P100、P60
株式会社新潟クボタCS技術部 住所：新潟市秋葉区川口乙580-17 電話：0250-25-3100 FAX：0250-25-3105	10月中旬～12月上旬 開催日は要相談	1開催あたり 6～8人	T10K T25K
ヤンマーアグリジャパン関東信越支社 アグリサポート部 住所：新潟市西区山田222番地 電話：025-231-7736 FAX：025-231-7775	7月下旬 9月下旬	1開催あたり 3人以上	DJI T10 T25 T25P T70P

注：受講募集した結果、教習可能人数に満たない等により開催を取りやめる場合があります。

注：※の教習は、本校の学生の受講を優先します。

4 農業体験等を通じた農業理解促進に関する研修

地域に開かれた農業大学校として、児童から学生を対象に、農業体験を通じて農業への理解を進める研修を実施します。

- (1) アグリキャンパスツアー
- (2) 「大地の子」農業体験研修
- (3) 農業体験支援研修

アグリキャンパスツアー

1 目的

農業に興味のある高校生を対象に、農業大学校の施設見学や先進農業技術等の農業体験を通じて農業に対する理解を深め、農業が進路選択の一つになるように支援します。また、農業大学校への進学意欲を高める機会を提供し、即戦力となる農業人材の育成を支援します。

2 開催期日

令和8年5月から令和9年2月までの間で、実施する高等学校と本校で事前に協議の上、決定した日

3 対象者

県内高校生（ただし、高等学校単位での実施とし、概ね5人以上から対応します）

4 実施予定人数

概ね8校 約400人

5 申込期限及び方法（P6参照）

参加を計画する高校は、農業大学校研修センターと内容及び日程調整の上、所定の申込書（P33）に記入し、申し込んでください。

申込期限は、開催予定期日の40日前までとします。

6 会場

農業大学校研修館及び実習ほ場等

7 研修概要

詳細は、高等学校と農業大学校研修センター担当者が事前に調整、協議の上決定します。

【対応できる研修・体験（例）】

①農業技術の研修・体験

- ・GAPの取り組み状況（稲作・いちご）
- ・スマート農業関連（稲作・園芸・畜産）
- ・米の品質等分析、食味試験
- ・園芸管理・収穫作業（野菜・花・果樹）
- ・水稻管理・収穫作業
- ・乳牛搾乳作業、牛（肉牛・乳牛）の飼養管理

②農業関連の講話

- ・新潟県農業（稲、園芸、畜産）の現状と課題

③農業大学校の概要・施設等の見学

④在学生との交流（学生生活の紹介）

8 その他

高等学校から農業大学校までの移動に係る往復の貸切バスの料金負担については、予算の確保状況を考慮しつつ、高等学校と農業大学校で協議の上、決定することとします。

アグリキャンパスツアー申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

高等学校名：

住所：

アグリキャンパスツアーを実施したいので、下記のとおり申し込みます。

記

1 期 日 年 月 日 ()

2 時 間 時 分 から 時 分 まで

3 実施の趣旨及び内容について(農業大学校に依頼する対応・内容)

4 参加者の概要 (名簿を添付)
学年 (専攻・コース) 及び人数 :

引率教員の人数 :

5 引率責任者氏名

担当者氏名:

電話番号:

FAX 番号:

E-mail:

「大地の子」農業体験研修

1 目的

- 土や作物・家畜を見て、触れて、体を動かす農業体験は、食料、環境、生命等に対する児童・生徒の正しい理解を深め、生きる力を育みます。
- そこで、農業大学校の施設を活かしてこの機会を提供し、農業理解を促進します。

2 開催期日

- 5月から12月までの期間で参加団体が計画する期日
(研修開催にあたっては、参加団体と事前に内容等を調整させていただきます。当校の授業等の都合上、希望に添えないことがありますのでご了解ください。)

3 対象者

幼児、小・中学生（稲作、園芸、農産加工の体験は小学生高学年、中学生のみ）

4 予定人数

体験内容ごとに、1回の体験可能人数は別表のとおり

5 会場

農業大学校 研修館研修室及び実習ほ場等

6 申込方法（P 6 参照）

- (1) 申込先等：参加団体は、期日・内容等を調整の上、所定の申込書（P 37）を農業大学校研修センター宛てに郵送、メールまたはFAXで参加者名簿を添付して提出してください。
- (2) 申込期限：開催予定期日の40日前まで

7 受講者負担経費

以下の体験は有料です。

- (1) 牛の餌あげ、乳搾り体験の場合は、ひとり100円（引率者は不要）
- (2) 農産加工体験の場合は、材料を持ち込むか、材料費が必要
- (3) なし、かきを収穫体験する場合は、収穫物は買取（なし150円/個、かき100円/個）

8 研修概要

- (1) 別表（P 35～36）の体験ができます。
体験の詳細については、参加団体と農業大学校研修担当者が事前に調整、協議の上決定します。
- (2) 体験の内容によっては事前学習をお願いすることがあります。

9 その他

- (1) 参加団体（幼稚園・保育園、小・中学校等）は、体験内容によって参加者の傷害保険等（災害共済給付制度に加入を含む）の加入をお願いします。
- (2) 畜産の体験に申し込む団体のなかで開催期日前3か月以内に海外へ渡航した参加者がいる場合は、参加をご遠慮願います。

別表

月	実施可能な体験内容等	体験可能人数	特記事項
5月	・なしの摘果	10人程度	中旬
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
6月	・講義：お米の話 ・水田の雑草の観察	35人程度	グループに分かれて体験
	・なしの摘果・袋かけ	10人程度	
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大40人	
7月	・講義：お米の話 ・稲の幼穂の確認	35人程度	
	・かきの摘果	10人程度	
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
8月	・講義：お米の話 ・稲の病気、害虫の観察	35人程度	グループに分かれて体験
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大40人	

月	実施可能な体験内容等	体験可能人数	特記事項
9月	・米の収穫	10人程度	
	・なしの収穫	10人以下	中旬～下旬
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
10月	・講義：お米の話	35人程度	
	・米の収穫	10人程度	
	・かきの収穫、渋抜き	10人以下	中旬～下旬
	・野菜の管理作業	10人程度	
	・花きの管理作業	10人程度	
	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大30人	グループに分かれて体験
11月	・講義：お米の話	35人程度	
	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大30人	グループに分かれて体験
	・講義：お米の話	35人程度	
12月	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大30人	グループに分かれて体験
	・講義：お米の話	35人程度	
	・牛の餌あげ ・牛の乳搾り ・牛舎掃除など管理作業	最大30人	グループに分かれて体験
5～12月	・農産加工体験 (米粉パン・菓子等)	最大20人	・エプロンと三角巾等を持参 ・材料は持込みか材料費を負担

※ そのほか農業大学校の施設見学ができます。（見学できる施設：田、野菜・花・果樹の畑やハウス、牛舎、農業機械練習コース等）

※ 天候や伝染病の発生状況等により、予定の体験をお断りする場合があります。

※ 4月及び1月から3月は開催しません。

「大地の子」農業体験研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

参加団体名：

住 所：

代表者名：

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

1 期 日 年 月 日 ()

2 時 間 時 分 から 時 分 まで

3 農業体験の内容

4 研修対象者及び人数 (参加者名簿)

5 引率者

6 交通手段等

7 その他 (該当する体験について下記にチェックしてください。)

牛の餌あげ、乳搾り体験を希望しており、受講者負担経費 (100円/園児等) を当日持参します。

農産加工体験を希望しており、材料を持ち込みます。

農産加工体験を希望しており、材料費を当日持参します。

なし、かきの収穫体験を希望しており、収穫物を当日買取ります。

(なし150円/個、かき100円/個)

担当者氏名：

電話番号：

FAX 番号：

E-mail：

農業体験支援研修

1 目的

近い将来、食関連の職業に従事する者等に対し、農作物の管理や収穫作業及び牛の管理作業等の農業体験機会を提供することにより、農業に対する興味や関心を醸成し、農業及び農村社会の理解を促進します。

2 開催期日

5月から10月までの間で参加機関・団体が計画する期日
(研修期日については、受講希望者と事前に調整させていただきます。)

3 対象者

県内の大学、専門学校の学生、食関連の職業に従事する者

4 予定人数

1回あたり、5人以上～35人程度、年間2回程度

5 会場

農業大学校 研修館及び校内施設、ほ場等

6 申込方法 (P 6 参照)

(1) 申込先等

参加機関・団体は、期日・日程等を調整の上、所定の申込書 (P 39) に記入し農業大学校研修センターへ郵送、メール又はFAXで参加者名簿を添付して提出してください。

(2) 申込期限

原則として開催予定期日の40日前まで

7 受講者負担経費

原則として無料ですが、一部実費を負担していただく場合があります。

8 研修概要

(1) 研修内容については、参加機関・団体と農業大学校が別途打ち合わせを行い、調整の上決定します。

(2) 農業体験を実施する前に「新潟県農業の概要」について説明します。

9 その他

(1) 参加機関・団体は、事前に参加者の傷害保険等 (災害共済給付制度加入を含む) に加入の上参加ください。

(2) 農作業等実習の際は、作業ができる服装 (運動着、長靴、雨具、エプロン等) を各自で用意してください。

農業体験支援研修申込書

令和 年 月 日

新潟県農業大学校長 様

機関・団体名：

住 所：

代表者名：

標記研修を下記のとおり申し込みます。

記

- 1 期 日 年 月 日 ()
- 2 時 間 時 分から 時 分まで
- 3 農業体験の内容
- 4 研修対象者及び人数 (名簿を添付してください)
- 5 引率者
- 6 その他 (交通手段等)

担当者氏名：

電話番号：

F A X 番号：

E-mail：

5 受入研修の申込みについて

当校の研修施設を利用して農業者を対象とした自主的な研修を実施しようとする団体(県の機関以外)は、研修開始の30日前までに下記の(1)～(3)の様式により申請し、許可を受けてください。

- (1) 施設使用許可申請書 (P41～42)
- (2) 許可事項変更許可申請書 (P43)
- (3) 研修館での宿泊名簿 (宿泊希望のある場合) (P44)

施設使用許可申請書

年 月 日

新潟県知事

様

住 所

氏 名

〔 法人にあつては、名称
及び代表者の氏名 〕

電話番号

下記のとおり農業大学校の施設を使用したいので、新潟県農業大学校規則第26条の規定により申請します。

記

施設 の 名 称	
使 用 日 時	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
使 用 予 定 人 員	人
使 用 目 的	

【注意事項】

- 1 名簿と日程表、または計画書等を添付してください。
- 2 施設使用料の減免を申請する場合、で囲んでください。

減免を申請する

- 3 視聴覚機材を利用する場合は、利用したい機材をで囲んでください。

マイク プロジェクター パソコン DVD その他 ()

- 4 宿泊を希望する場合は、宿泊者名簿（P43）を提出してください。
併せて、研修主催(担当)者は研修開始前に研修センターより注意事項（宿泊室等の使い方について）の説明を受けてください。

申し込み担当者 連絡先	職	氏名
	電話	(内線)
	FAX	
	E-mail	

許 可 事 項 変 更 許 可 申 請 書

年 月 日

新潟県知事

様

住 所

氏 名

電話番号

下記のとおり農業大学の施設の使用の許可を受けた事項を変更したいので、新潟県農業
大学規則第27条の規定により申請します。

記

変 更 内 容	
変 更 理 由	

研修館での宿泊者名簿

年 月 日

新潟県農業大学校長 様

申込機関・団体名

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

- 1 研修名
- 2 研修期間
- 3 宿泊者名簿

	氏名	性別	住所又は所属	宿泊日	備考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(注) 10人以上が食堂を利用する場合は、利用する日の2週間前までに研修センターへ連絡すること。

6 研修館の宿泊について

(1) 宿泊研修生の心得

(2) 研修館見取図

宿泊研修生の心得

令和8年4月1日
新潟県農業大学校

1 基本的心得

- (1) 研修期間中は集団生活のため、各自が良識をもって行動し、健全な生活と環境の美化に努めること。
- (2) 自主管理を原則とし、禁止事項、生活時間及び生活上の留意事項を守ること。

2 禁止事項

- (1) 研修館及び本館（敷地内を含む。）での喫煙、飲酒及び規律を乱す行為
- (2) 指定した居室の無断変更
- (3) 給湯室内のコンロを使用しての調理（電子レンジや湯煎による調理は可能）

3 生活時間

- (1) 学生食堂営業時間・曜日
昼食：午前11時30分～午後1時（月～金）
- (2) 入浴可能時間
午後5時～午後11時 ※ 給湯は午後11時で終了
* 浴室の湯はり：1階男子浴室…自動
2階女子浴室…利用者が行うこと。
- (3) 門限
午後10時（学生寮舎監が研修館正面玄関を施錠）
- (4) 居室の給湯及び空調設備の運転時間
午前6時～8時30分 午後5時～11時
運転時間外はファンのスイッチを止めること。

4 生活上の注意事項

- (1) 非常口及び消火器の位置を確認すること。
- (2) 給湯室のガスコンロ使用時は火災に十分注意すること。
- (3) 研修室・居室を不在にするときは照明及び空調ファンのスイッチを切ること。
- (4) 研修中は各自で保健衛生に留意し、感染症に対する予防対策をとること。
- (5) 貴重品の管理は各自で行うこと。
- (6) シーツや寝具類のカバーは各階のリネン室に収納してあるものを使用すること。
ベッドメイキングの方法は各居室に設置してある「ベッドメイキング（寝具の使い方）」を確認して行うこと。
- (7) ゴミは給湯室のゴミ箱に分別して出すこと。
- (8) ランドリー（洗濯機・乾燥機）は宿泊者用のものを利用すること。
使用後は水道栓を必ず閉めること。
- (9) 冬期間（寒い時）はリネン室の厚手毛布を必要に応じて使用し、使用後はリネン室に返却すること。

5 災害及び急病等発生時の留意事項

- (1) 火災、地震及び急病等の発生時は自身の安全を確保した上で、緊急度に応じて

- 119 番通報すること。その場合、研修主催者及び学生寮舎監へ連絡すること。
- (2) 洪水等災害の発生が予想される場合は、気象庁や市役所等の情報を把握し対応すること。

6 居室退室時の注意

- (1) 原状回復すること。
- (2) 「研修生宿泊日誌」に記載されている事項を確実に履行すること。
- (3) 研修最終日の退室時間は、研修主催者が別に指定した場合を除き午前 8 時 45 分とする。
- (4) 退室後は、研修主催者に居室の鍵及び「研修生宿泊日誌」を提出し、宿泊経費を支払うこと。

7 宿泊経費（一人当たり）

- (1) 宿泊料金（1 泊あたり、食事別）
- ・ 普通宿泊室 1,500 円
 - ・ 浴室付き宿泊室 1,800 円
- ※ 宿泊経費は利用者区分により異なるので、研修主催者に確認すること。
- (2) リネン料金
- 1 泊あたり 500 円

8 宿泊時に持参するもの

- (1) パジャマ、タオル類
- (2) 洗面用具
- (3) 洗剤類（ボディソープ、シャンプー、衣類用洗剤）

9 その他

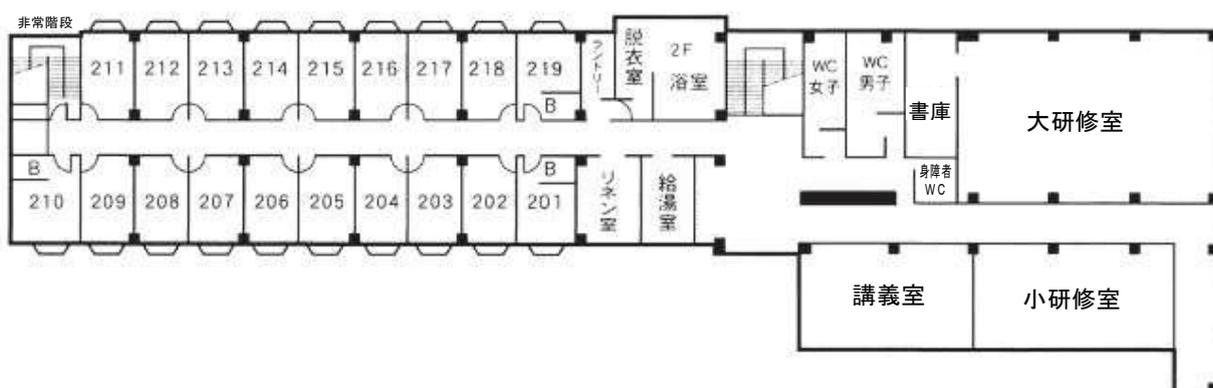
- (1) 学生寮舎監室の電話番号：0256-72-0137
- (2) 公衆電話は、駐車場側の橋（のぞみ橋）脇に設置されています。

研修館見取図

(1 階)

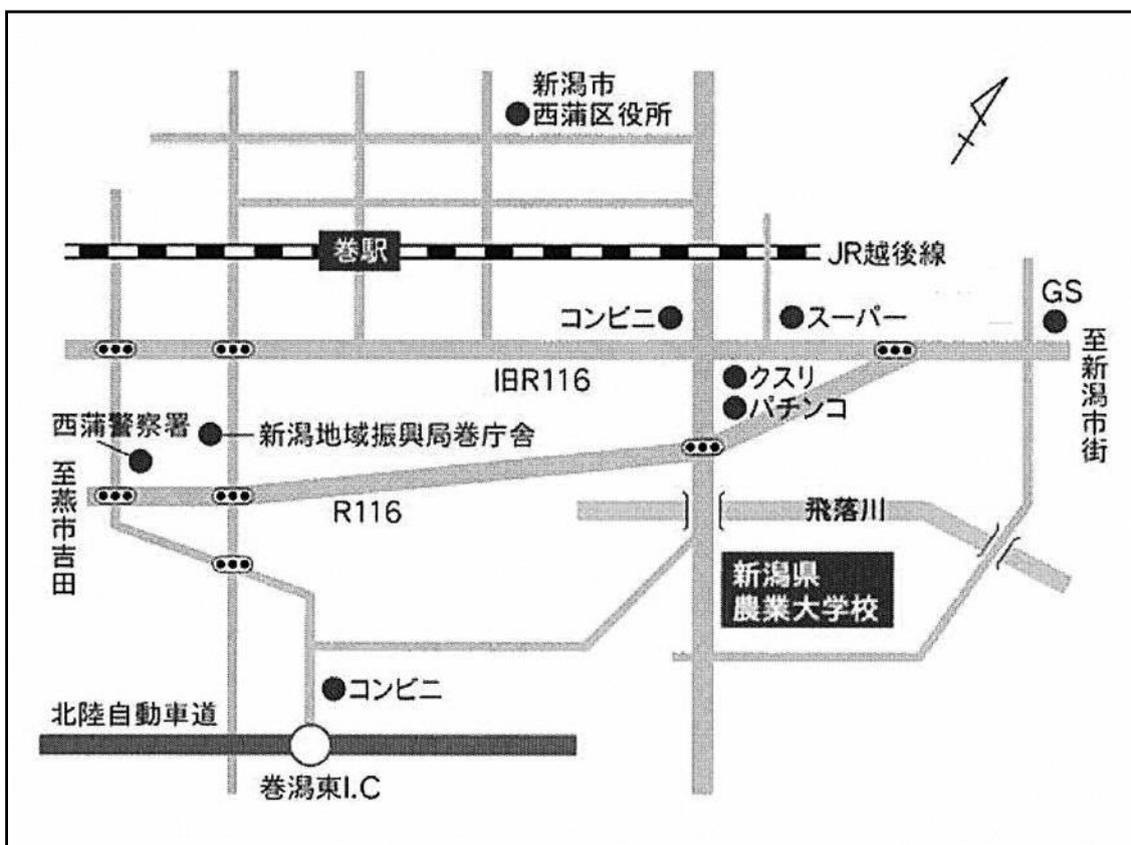


(2 階)



所在地と交通

- ・ JR越後線／巻駅下車
駅前よりタクシー7分（バスの便はありません。徒歩で40分）
- ・ 北陸自動車道／巻・潟東インター下車（バスの便はありません。タクシー10分）



新潟県農業大学校研修センター

〒 953-0041 新潟県新潟市西蒲区巻甲12021

TEL (0256) 72-8547

FAX (0256) 73-3001

E-mail : ngt068260@pref.niigata.lg.jp

<https://www.pref.niigata.lg.jp/nogyodai/1343599229862.html>

